



「まつかぜ」の命名は、初代学園長村島歸之先生の著書「松風のひとりごと」に因みます。

『自由で平和であたたかな校風の中』 平和学園小学校校長 橋明子(高1977)

「まつかぜ」の原稿依頼をいただくと、この一年の月日が様々な思い出と共に浮かんでいきます。皆様、お変わりありませんか。今年の猛暑は、生活の様子を変えてしまう大きなことでした。そして、社会に目を向けると、私たちの住む国の未来に希望が持てるのだろうかと不安を感じる時代。だからこそ、「平和をつくり出す人たちは、幸いである」という学園聖句を改めて心に刻む平和学園小学校です。

さて、小学校は近年、募集では苦しい状況が続いていますが、皆様の祈りに支えられて、小学校の灯りを灯し続けています。現在の在籍数は77名。少人数を特徴の一つとしているものの、もう少し児童数が増えていくことを希望しています。では、小学校の「少人数制を大切にしている」とは、どのようなことなのでしょう。一つは創立者の思いがあります。そして、児童の生活から見えてくる、少人数だからこそその育ちがあるのです。仲間と仲間の間に流れるものが濃くなる。目に見える繋がりと、目に見えない深いところの繋がりがあるということ。固く結ばれる絆、信頼で支え合う児童の姿。少人数がために生まれてしまう負の経験も、決して目を背けてはならないものです。どのような事柄に対しても、全員で解決する力を繋いできた歴史。また、そのような学校の姿勢を傍らで見つめる保護者、地域の方々の存在。そのどれもが小学校にとって大きな宝の一つとなっているのです。きっと今がそうであるように、卒業生のお話を聞いたときに、創立以来、校風は変わっていないと思えるのです。固い絆で結ばれた古い時代の良き仲間である卒業生が、今でも小学校を愛し、応援し続けてくださっているという話を聞きます。お会いしたことがないけれど、その愛情の深さに嬉しさがこみあげてきます。時代がどのように移り変わろうとも、小学校を長く見守り祈り続け、支えてくださる方々の思いに感謝です。そして、卒業生の思いが、現在平和学園の中で共に生きる園児、児童、生徒、先生方の力強いエネルギーになっています。卒業生の皆様、これからも平和学園

小学校の良き応援団でいていただきたいと願っています。

2023年度の歩みが始まり、長い3年間のコロナ感染症対策の日々から解放され、小学校でも子どもたちの日常生活が戻ってきました。マスクを外した生活の中で、笑顔が光る平和っ子。小学校ならではの行事を楽しみに待っている子どもの様子に、再びファミリーの歩みの一步を踏み出した4月でした。プレイデーでは、以前のように食事をするという事はできませんでしたが、新入生の歓迎紹介、ドッジボールなど、グラウンドに温かな風が吹いた楽しい時でした。そして、自然教室。3年間、コロナ感染症の影響により以前のような活動ができず、その間に、春に行う自然教室の意味を色々と振り返ることができました。自分のことを見つめ、他者(異なる年齢の友だち、仲間)のことを考えながらの生活は、他では得ることができない経験であり、心の内側が繋がる行事であると改めて感じました。また、自然教室では天文教室が開かれ、山中湖の大空に輝く星を見ます。朝早く起きて、自然の中で生きる鳥たちの鳴き声を聞き、そっとその姿を見るという経験もします。自然教室では、神さまがつくられた自然をより身近に感じることができるのです。

これからも、神さまの愛に導かれて祈り、すべての物、まわりの人に感謝して日々の歩みをしていきたいと思います。

追伸 天文教室と聞くと横山哲夫先生を思い出されるのではないのでしょうか。当時を懐かしむ卒業生の方から、横山先生の「人となり」を聞く機会を与えられた現職の教職員は、ここからまた、歴史を繋いでいくことなのでしょう。現在の天文教室は、増渕秀俊先生が担ってくださっています。



伝統を受け継いでこれからを作る アレセイア湘南中学高等学校 校長

2023年4月にアレセイア湘南中学高等学校の校長に着任しました小林直樹です。校友会の皆様には平和学園、またアレセイア中学高等学校を支えていただきありがとうございます。

少し自己紹介をします。1995年、島根県から神奈川県に戻ってキリスト教学校で仕事をしたかった



私は、ご紹介いただいて当時の夏村校長先生にお目にかかることができました。パソコンを教えることが出来たら仕事があると話をいただき、即答で「はい」と返事をし、1996年に中高の教諭として採用いただきました。当時はワープロからパソコン(PC-9801)への移行期で、教科書も教員免許もない時代でした。ワープロや表計算、

タッチメソッドなど実用的なことに主眼を置き、経験をもとに工夫して授業を作ったことを昨日のように覚えています。最近当時の卒業生に会う機会があり、授業で身につけたメソッドが役に立ったと言われ、嬉しく思いました。

以来中学や高校で担任を持ち、バレーボール、サッカー、硬式野球、バドミントンなど運動系の部活を担当し、忙しさの中にも毎日を充実して過ごすことができました。初めての高校卒業生を送り出した2005年を境に仕事の内容が宗教課責任者、教務主任、教育研究所主幹、広報募集主任、教頭と少しずつ学校全体を見る役割に変わっていきました。

定年まで後1年という2023年4月、校長の職を引き継ぐようにと命じられました。身に余る役職ですが、これまでお世話になった平和学園、アレセイア湘南中学高等学校に少しでも恩返しができればと、精一杯のことをさせていただきたいと思っております。改めてよろしく願いいたします。

ここからは、現在の中高を紹介します。賀川・村島両先生が建学の精神に込めた平和への想いを受け継ぎ、今の生徒たちに分かり易いよう「小さな平和から大きな平和を」「いつでも、どこでも、誰と

でも協力できる社会を作る」「世界平和に貢献できる人」という言葉で表し、教育の根底に据えています。

中学は1999年に共学となり、以来1学年2クラス、1クラス25名前後の少人数教育を行なっています。「言語力・思考力・たくましさ」をキーワードとして、社会福祉体験や職業体験など様々な体験的な学びとグループワーク、プレゼン作成と発表を繰り返し、少人数ならではの良さを活かしながら生徒たちを鍛えています。高校は2000年に共学となり、現在は特進コースと探求コースの2コース制、1学年が7~9クラスです。特進は早稲田、慶應、GMARCHなどの難関私立大学に一般入試で進学することを目標としたカリキュラムをもつコースです。

勉強だけでなく部活や行事などの学校生活に意欲的な生徒が集まっており、讃美歌コンサートでも見事なクラス合唱を発表してくれました。探求コー



スは自分の生き方を探し求める学びを目的とし、企業・起業探究や社会問題探究、課題探究など企業や地元とコラボするユニークな学びを設定したコースです。多くの生徒が集まり、自分の興味・関心から課題発見・解決へとつなげるスキルを身につけ、その先に自分のキャリアを求める学びをしています。中高全体として力を入れているのが「英語は才能ではありません」というポリシーのもと、6人のネイティブと学ぶ英語です。授業のみならず、放課後には国際英語塾などの講座を設けています。国際大学連合との提携も行い、主に英国の大学への指定校推薦枠なども持っています。

多くの生徒、先生が生き生きと動き、活気がある中高です。その責任を取る事になり身の引き締まる思いで毎日を過ごしています。

礼拝の時 汐見 尚子(在職1992-2023・中1979・高1982)

今年の三月に長年通った平和学園に別れを告げました。生徒として六年間、教師として三十一年、計三十七年通いました。離れてみて私にとってかけがえのない、また平和学園ならではの『時』があります。毎朝の礼拝の時間です。



礼拝の場所は昔も今も変わらない賀川村島記念講堂です。生徒の頃は床がコンクリートで寒くなるにつれてしんと下から冷たい空気が上がってきました。いすはパイプ椅子のような素材で、冬は座ると体が冷えました。今は冷暖房も入り、いすは座り心地の良いものになりました。

礼拝の流れは変わっていません。オルガンの奏楽の中、講堂へ入り、黙祷して待ちます。讃美歌を賛美し、聖書を読み、お話を聞いて、祈ります。

礼拝に少し慣れてきた中学生の頃、ある日次の聖句が読まれました。『天が下のすべての事には季節があり、すべてのわざには時がある。生まるに時があり、死ぬるに時があり、・・・(以下略) (コヘレトのことば第三章一節以下 口語訳) 『～する時があり、・・・』と十四行にわたって書かれてあり、心に残った初めての聖句でした。『時』が形あるものに見えてきて、それ以来、『時』について意識するようになったのを覚えています。

また、いつごろか定かではありませんが、ある先生が次のようなこととお話されました。「学校での礼拝は教師、生徒の区別なく一人の人間として、共に同じ讃美歌を賛美し、同じ聖句を読み、同じお話を聞きます。同じ時間と空間を平等に共有しています。しかし、共に過ごしている時間をどのように受け止め、解釈するかは人それぞれです。」平和学園、アレセア湘南中学校高等学校ではそのような礼拝の時間を毎朝、教職員、生徒全員がもっています。

クリスチャンの友人が言っていました。「聖書の言葉を毎日シャワーのように浴びる、とてもうらやましく素敵なことです。先生、生徒は聖書が語っていることをゆっくりと自然に受け止めていくようになるのでしょう。」

二千年以上も前に書かれた聖書は現代にも通じる普遍的な言葉であふれています。それを毎朝読んだり、聞いたりすることで、愛するということ、愛されるということ、目には見えないものに目を向けるということ、そして感謝するというのが私の中で積み重ねられていった気がします。そしてそれは学園の聖句である『平和を作り出す人々は幸いである。彼らは神の子と呼ばれる。』につながっていきました。平和を作り出すとは、平和を作り出すには何をどのように考えていったらよいか、今でも答えは出ませんが、考え方や道筋を与えられました。毎朝の礼拝の賜物と思います。



平和学園、アレセア湘南中学高等学校では教職員も生徒も毎朝礼拝で一日が始まります。愚直と言ってもいいくらい毎朝礼拝があります。毎朝礼拝がある学校は少ないということを離れてみて知りました。通っていた時は毎朝あることが当たり前だったので、何も感じなかったのでしょうか。礼拝を毎朝していることがなんと素晴らしく、貴重であったかとしみじみ思います。毎朝の礼拝は学校の伝統であり、誇りです。

毎朝の礼拝を継承しているのは学校に集うすべての人々です。これからも朝の礼拝の時間を大切に、続けていくことを願っています。

汐見先生、長い間
ありがとうございました。



私が受けた平和学園小学校の教育 川崎雅司(小1968)

アメリカに渡って39年、バージニア大学に教職を得てから今年で33年になります。私が約60年前、平和学園で授かった宝物のような体験を思い出すと、今でも感謝の気持ちで胸がいっぱいになります。平和学園のどこがそんなに素晴らしかったのでしょうか？個人を重んじ功利主義に囚われないヒューマンイズムに満ちた教育方針、自由主義、ほとんど家族のような少人数制、教員にも生徒にもダイバーシティが重視されていたこと、音楽に満ちた日々等々、長所は数え切れません。

そんな中で私の後の人生に特に大きな影響があったと思うことが2つあります。素晴らしい自然環境と理科教育です。無機質な塀に囲まれた敷地に規格通りの校舎と校庭がある「普通の」小学校とは異なり、平和学園の敷地はかなり広大な松林の中にありました。教室から講堂や理科室へ移動する短い時間でさえ自然に浸ることができました。小さい時から虫が好きだった私は、あの頃平和学園の校庭で出会った虫たちを今でも懐かしく思い出します（たとえば校舎脇の砂地にすり鉢状の巣を作るアリジゴクをよくマッチ箱に集めたものでした）。

理科の横山哲夫先生には、他の小学校では考えられないような破格なサイエンスショーを見させていただきました。砂地の校庭の真ん中に置かれた炎全開の石油ストーブの上に、先生自ら作られた紙製の大きな熱気球を被せる野外実験。ストーブの火が気球に燃え移ったら大変とハラハラしながら多くの生徒が見守りました。熱膨張で空気の密度がどうのなどの講釈は一切ありませんでしたが、このような壮大なサイエンスショーによって物理の法則を我々の脳裏に焼き付けてくださいました。また、横山先生が古タイヤを焚き火に投げ込み、大きな黒煙を上げたため消防車が飛んできた事件もありました。先生は、多量のゴムを火に焚べるとどうなるかを生徒たちに見せたかったのかもしれませんが。横山先生は私個人にも破格の「指導」をしてくださいました。今でもよく覚えているの



は、理科準備室に私を招き入れ、ガラス細工に使うガソリンバーナーという道具の使い方を教えてくださいました。足踏み鞆（ふいご）で圧搾空気を作りガソリン蒸気と混合して高温の炎を得ると



いう、一步間違えば大火災を招きかねない大変危険なツールです。手とり足取りの一通りの指導が終わると、いつでも好きな時に使っていいよと言われ、後日一人で理科準備室を訪れ溶けたガラス管を弄り回す喜びを存分に体験させてもらいました（今日では考えられないことですね）。

このような非日常的イベントに限らず、通常の授業や生活にあっても、平和学園の先生方は私達小学生に、まるで大人に話しかけるような言葉遣いで接してくださいました。日本語の会話や教示には自然と上下関係が入り込み易く、学校教員はつい上から目線の言葉遣いになりやすいものですが、そうならなかったのは、学園理念の奥深くに個人の尊厳と平等を重んじ差別を否定する考えがあったからではないでしょうか。このようにして育てて頂いた少しばかりの自己肯定感は、卒業後、社会と関わり育っていく上で大変大きな意味があったと思います。最近、国連人権理事会から「日本では、政治・経済・教育・メディアなど社会の隅々まで、差別と上下関係の力が浸透し、個人の尊厳が脅かされ、それを当然の事とする社会通念が固定化している。日本が国際社会に肩を並べるためには、日本社会は何よりもまずこれを正さなければならない」との衝撃的な提言がありました。周りの世界とは少し違う平和学園で小学校時代を過ごしたことで、私にはこの提言の意味が良くわかるような気がします。

卒業後、私は公立中学校、公立高校へと進みましたが、平和学園と大きく異なる環境にあっても（たとえば上下関係一色の運動部）、平和学園での体験を頼りになんとか自分の道を見つけることができたと思います。小学校時代の動物との関わりのおかげでしょうか、大学では生物学を、大学院では動物行動学を学びました。1984年にアメリカに移住して

からは、コウモリのエコーロケーションや電気魚（電気でコミュニケーションをする魚）などの研究をし、現在はバージニア大学生物学部教授として、魚の感覚神経系の研究と動物行動学の教育に従事しています。動物行動学の講義では小学校時代にアリゾナで遊んだ体験などを披露したりしています。大学のDiversity, Equity, and Inclusion（多様性・公

平性・包括性）委員会では、アメリカの大学キャンパスにも未だに存在する様々な差別や不適切な上下関係と戦う仕事もしています。多様性と公平性を社会の至上価値とするアメリカ社会に、長く生活すればするほど、平和学園時代の特別な経験を有り難く思うこの頃です。

我が青春に目覚めた日々 千葉武(中1950・高1953)

1947（昭和22）年、平和学園中学校に入学し、初めて戦後の平和の時代を歩き始めた。もちろん駅からのバスなどなく、各自自転車通学をしていた。家から3分走ると田んぼが見え始め、続いて畑となり、途中の富永家やら、大石家の前を走り、やがて平和学園の裏門に着いた。

学校では授業より、何よりも昼のお弁当の時間が待ち遠しかった。数人で自転車に乗って海岸に走り、そこでお弁当を食べる楽しさは、今でも頭の奥に残っている。

最初は30名近くいたクラスメートも、時間が経つにつれ段々他校に転出していった。最終的に高校で残ったのは22名と思われる。この集団の絆が、高校を卒業しても「極光会」という名のもとに、以後50数年も続くのであった。それほど、男女を問わず、相互のつながりは密なものであった。当然、お互いの家庭に入り込み、ご両親はもちろん祖父祖母などとも楽しい時を過ごした仲間であった。



また、当時の小机の村島先生のお宅には、毎年お正月にはご挨拶に伺ったことを思い出すが、この行事は

大学に入学後も数人連れだっでご挨拶に伺うほど、村島先生及びご家族とは親密な交際を頂いた。

キリスト教教育は幼稚園時代から身に付いていたので、平和学園入学の際にも特に違和感はなく、なんとその幼稚園の園長さんであられた大橋牧師に平和学園で巡り合う奇跡にも恵まれた。

このように、我が青春は平和学園からの授かりものである。感謝！！



同窓会開催報告

小学校昭和43（1968）年卒 プチ同窓会

アメリカ在住の川崎雅司君が日本へ帰省するという連絡があり、急遽クラス会をすることになった。川崎君の提案で弟の雅哉君が経営している逗子海岸近くのレンタルヴィラ「ヴィラ ラメール 逗子・葉山」で行うことに。急な連絡にもかかわらず、2023年7月8日（土）に6名が集合した。その際、同級生で毎回クラス会に参加していた中野潤一君がクラス会10日前に天国へ召されていたことがわかり、しばし中野君の思い出話となった。

話をしていると外見は年をとっても心は55年前にタイムスリップ。それぞれ小学校時代の思い出に違いがあり、驚いたり感心したりしながら楽しい時間を過ごした。元気なうちにまたの再会を約束してお開きとなった。



村島帰之先生ご生誕130周年記念礼拝によせて

校友会主催による、平和学園の創立者・村島帰之先生(1881-1965)のご生誕130周年記念礼拝が、コロナ禍のため1年遅れて、2022年11月12日に平和学園賀川村島記念講堂にて、卒業生、旧・現教職員を中心に200名ほどが参集し、執り行われた。

開催趣旨：

村島先生ご生誕130周年にあたり、お祈りを捧げ、平和学園に関わる皆様とともに建学の精神を改めて考える機会としたい。

村島先生から教わった当時の在学生在が高齢となってその記憶が薄れようとしており、先生から教わったことや思い出、当時の校風や、教職員そして子どもたちや家族がどのように関わってこの学園が運営されていたのか、当時を知る生の声を聞き、先生の記憶を辿りながら、改めて「平和学園の建学の精神」に思いを巡らしたい。



前半は夏村充牧師(元理事長・元学園長)の司式での礼拝。後半は校友会倉澤会長の挨拶に次いで、吉田吉男元校友会長(小1949・中1952・高1955)による講演、吉田氏、宇佐原敦氏(小1949・中1952・高1955)、高垣徹蔵氏(小1956)、伊藤美保子氏(小1959)、岡田枝画子氏(小1959)による座談会が行われ、こもごも思い出が語られた。

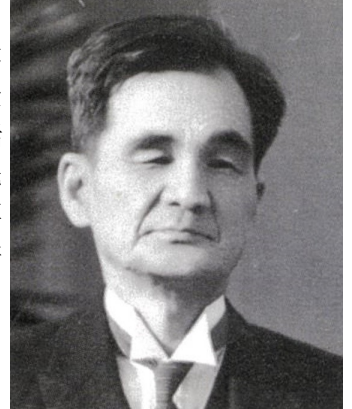
なお文章で寄せられた思い出を以下に紹介する。

村島先生の思い出

池田明美(旧姓服部:小1957・中1960)

私が小学2年の時、毎朝の講堂での礼拝時、賀川先生のお話をして下さったことがありました。当時「らい病」という病気の名前もおろか、どんな病気であるかも知らないでいた私は、その伝染病と恐れられていた病を負っている患者に、賀川先生は臆せ

ず如何に献身的に尽くされていたか、という内容でしたが、深い感銘を受け、その情熱をもって話されているお姿に村島先生は賀川先生を真摯に尊敬なさっていると、子供心にも感じられて、その時の村島先生のお説教は後々まで強い印象として残っております。



また、それから4年ほど経って、クラス5人で文芸部を作りました。「文芸部」と名のつくほど大層なものではありませんでしたが、その中で、俳句を添削していただいたことがありました。しかし、その頃は既にご病氣も進み、ベッドにふしておいででしたのに、今思えば拙い、俳句ともいえない俳句らしきもので、先生をお煩わせしてしまったはずで、それにも拘わらず、当時の私たち5人は窓際のベッドの傍まで伺い、逆に励ましのお言葉を頂いたこともありました。先生のベッドの横には奥様も微笑みを浮かべながら寄り添っておられ、おふたりの優しく美しいお姿は、松の木がいっぱいの、のどかな周りの景色と共に、今も目に焼き付いております。

村島先生は私の小学校の思い出の中で山澤先生、東門先生と共に欠かすことのできない方であり、先生を思うと胸がポツと温かくなってまいります。

村島先生、よき思い出をありがとうございます。今回、村島先生を改めて偲ぶ機会を得て、またそれによって当時の懐かしい思い出を蘇らせることができ、この回を催すためにご尽力された方々に深く感謝いたします。



村島先生と私の小さなエピソード

佐藤星子(旧姓小林:小1957・中1960・高1963)

私の小学校時代には、村島先生は体調をくずされていて、めったに校内でお目にかかることがありませんでした。

その様な中、私が1年生の時、クリスマス礼拝のペイジェントの天使の役を頂き、旧講堂の舞台の中央で幕が上がる前、一人でこれから始まるイエス誕生の物語を語りました。その後、無事に舞台を終え、先生にご挨拶した時、先生は「小さいのに素晴らしいガブリエルを演じましたね。」と褒めてくださいました。それからの6年間に、2、3回お話しする機会があるたびに、「小さなガブリエルには感動しましたよ。」と言ってくださり、とても嬉しく感じていました。

今振りかえって考えると、この先生の褒め言葉が学校生活に自信を持つキッカケになっていたのではと思います。

村島先生の思い出

伊藤美保子(小1959)

村島先生記念礼拝の折に話し忘れた先生の思い出を書いてみます。

先生のお名前を聞くとすぐに脳裏に浮かぶ光景があります。私は、登園拒否で幼稚園に行っていなかった兄の代わりに(?)入園前から兄の友達と幼稚園に行っていました。噴水池の前で先生と手をつないで、みんなで「かごめかごめ」をして遊んだことや みんなが輪になって座っているまわりを鬼役の先生の手におろ下がるようにして歩いた時の光景です

皆さんがおっしゃっていた「平和を作り出す人になりましょう」、「隣の人を愛しましょう」、「世の中の雑巾になりましょう」という、その精神が今も平和学園の中に息づいていることをとても嬉しく思います。学校の行事に集まるといつも感じます。皆さんの顔を拝見すると、平和な気分になります。ほんとにいつもありがとうございます。

クリスマスコンサート&ジャズコンサート報告

第36回クリスマスチャリティー パイプオルガンコンサート

12月10日(土) 賀川村島講堂にてオルガニストの後藤香織さんの企画・構成によりパイプオルガンコンサートが行われました。

前半はパイプオルガンの演奏と調律師の須藤さんによるオルガンに関するクイズがあり、来場者の皆さんが楽しくクイズに参加しました。後半は本校パイプオルガン講座卒業生の塩沢真輝さんがキリスト降誕の物語を朗読。朗読の合間にクリスマスの讃美歌の演奏があり、クリスマスの雰囲気を楽しみました。

来場者から寄せられたチャリティー基金は、茅ヶ崎市内の3ヶ所の児童養護施設へ寄贈いたしました。

2023年度は12月9日(土)にコンサートを予定しています。本年は明治学院大学オルガニストの山本由香子さんとサクソ奏者の石田寛和さんの共演で、クリスマス音楽を楽しんでいただきます。また、平和学園小学校ハンドベルクラブの生徒も参加しますので、ぜひお出かけください。詳細は学園ホームページまたはFacebookでご確認をお願いします。

第11回ジャズライブコンサート湘南

4年ぶりのジャズライブコンサート湘南が2023年5月13日午後に賀川村島記念講堂で開催されました。

ピアノとヴォーカルで活躍中のグレース・マーヤさんを中心にベースの中村健吾さんとドラムスの横山和明さんが、スタンダード・ナンバーからビートルズ、クイーン、サザンオールスターズとグレース・マーヤさんのオリジナル5曲を含め、幅広いレパートリーを披露されました。アンコールでは会場全体で“It's A Wonderful World”(この素晴らしき世界)を唱和して、楽しい2時間が終わりました。

次回は来年2024年5月18日(土)の予定です。





平和学園アレセア湘南

校友会

HEIWA GAKUEN ALETHEIA SHONAN

第37回平和学園クリスマスチャリティー
パイプオルガンコンサート
～聖夜に届ける音楽の贈り物～

2023 12.9(土)
13:30開演 12:30開場
会場 平和学園賀川科島記念講堂

入場無料

クリスマスチャリティー
パイプオルガン
コンサート 2023

2023年12月9日(土)
開演 13:30
出演 山本由香子Organ
石田寛和Saxophone
入場無料

住所変更等は下記ホームページから手続きできます。

HOME 活動状況 同窓会の開催 卒業生情報更新 問い合わせ

社会で活躍する
平和学園の同窓生

ホームページ
heiwagakuen.com

小学校バザー

2023年11月3日(祝) 11:00~13:30

バザー販売品急募!
ご寄付下さい!

コロナ禍で規模が縮小されていた小学校PTA主催のバザーに同窓会、校友会が4年ぶりに参加します。ぜひ、お出かけください。また、寄贈品を集めています。ご協力いただける方は「バザー寄贈品」と明記の上、小学校宛に送ってください。なお、寄贈品は未使用のものに限り、食品はご遠慮ください。当日の持ち込みも歓迎です。

送り先: 〒253-0031 茅ヶ崎市富士見町5-2 平和学園小学校



2022年度校友会会計報告

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
ジャズコンサート	0	ジャズコンサート	0
パイプオルガンコンサート	143,352	パイプオルガンコンサート	136,457
小学校同窓会拠出金	210,000	まつかぜ・学園広報 印刷・発送費	211,947
維持会費	6,000	事務費	20,398
その他	3		
小計	359,355	小計	368,802
前期繰越金	333,173	次期繰越金	323,726
合計	692,528	合計	692,528

2022年度小学校同窓会会計報告

収入の部		支出の部	
項目	金額	項目	金額
維持会費	243,600	卒業生記念品	89,100
新卒者入会金	70,000	バザー寄付金	0
その他	14	ブレイダー協力金	0
		維持会費振込料	22,554
		校友会拠出金(まつかぜ発行分)	210,000
小計	313,614	小計	321,654
前期繰越金	2,919,144	次期繰越金	2,911,104
合計	3,232,758	合計	3,232,758

平和学園・アレセア湘南校友会への連絡

メールアドレス: heiwagakuen@gmail.com

郵便: 253-0051 茅ヶ崎市富士見町5-2 平和学園内 平和学園・アレセア湘南校友会

電話: 0467-87-1662

※校友会・同窓会への連絡がある旨をお話頂ければ、折り返し電話を申し上げます。

校友会のお手伝いをして頂けるボランティアスタッフを募集しています!

維持会費納入のお願い

校友会運営にご協力ありがとうございます。当会はボランティアで運営されており、会費は会報まつかぜの発行やWEBページの維持、学園支援などに使わせて頂いております。維持会費は同封の振込用紙を利用して納入していただきますようお願いいたします。

1口 1,000円 何口でも結構です。

※卒業後22歳までは免除となりますが発送作業の都合上、全員に振込用紙を同封しています。

銀行振込をご希望の方

スルガ銀行 茅ヶ崎支店(普通) 503511 平和学園・アレセア湘南校友会

※お振込後にホームページの『寄付の受付』に必要事項をご登録ください。